

ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点が 「第2回 防災技術イノベーション研究会 Robust BOSAI シンポジウム」を開催

ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点は、10月1日（火）、北海道大学大学院工学研究院フロンティア応用科学研究棟鈴木章ホールにおいて、「第2回防災技術イノベーション研究会 Robust BOSAI シンポジウム」を開催した。

近年、北海道の農林水産業のフィールドは、従来の発想では対応できないような自然災害に脅かされており、「新たなステージ」に進みつつある自然災害に対する防災力強化、フィールドのロバスト化（堅牢化）は喫緊の課題と言える。この現状を踏まえ、北海道大学とロバスト農林水産工学科学技術先導研究会は、Society 5.0を目指した高度な技術やノウハウの共有、新たな研究開発、防災教育と人材育成までを実現するため、昨年度「ロバスト農林水産工学研究開発プラットフォーム」を立ち上げ、現場ニーズに基づく次世代農林水産工学の技術開発を進めている。

今回のシンポジウムでは、北海道胆振東部地震から学ぶ複合災害対策に焦点を当て、産学官のこれまでの調査で得た知見について解説すると共に、昨年度設立した「ロバスト農林水産工学研究開発プラットフォーム」の活動成果報告も交え、今後の課題や発展について議論した。

まず、瀬戸口剛工学研究院長の開会挨拶の後、宮坂尚市朗厚真町長が、「平成30年北海道胆振東部地震からの教訓」と題して特別講演を行い、震災被害や当時の苦勞、復興の現状について語った。次に、小林利道株式会社大林組設計本部プロジェクト設計部長が、「森林と共に生きる街『LOOP50』建設構想」と題して基調講演を行い、木材を用いた循環型都市の将来像を提示した。続いて、古川泰人株式会社MIERUNE取締役が、「“Open”であること・・・OpenData・OpenScience・OpenSource・OpenGovernment」と題して基調講演を行い、インタラクティブな情報の重要性を示した。

後半は、パネルディスカッションの話題提供として、渡部要一工学研究院教授、中嶋唯貴工学研究院准助教、佐藤久工学研究院教授、田部豊工学研究院教授の4名から講演があり、地震から一年間追跡した調査内容や、震災時に必要な工学技術などについて紹介した。続いて、泉典洋工学研究院教授がコーディネーターを務め、宮坂氏、小林氏、古川氏と話題提供者、計8名によるパネルディスカッションが行われた。会場からの質問・意見を集約するシステム「Sli.do」の利用により、参加者とパネリストの間で双方向に活発な意見交換が行われた。

最後に、岡田成幸広域複合災害研究センター特任教授の閉会挨拶により、本シンポジウムは盛会裡に終了した。

今回のフォーラムには、行政機関、農林水産業の関連団体、民間企業などから約100名が参加し、多くの方々から「興味深いシンポジウム」との意見を頂くとともに、防災への関心の高さが窺われた。

（工学研究院）



開会挨拶を行う瀬戸口工学研究院長



特別講演を行う宮坂尚市朗厚真町長



基調講演を行う小林利道 株式会社
大林組設計本部プロジェクト設計部長



基調講演を行う古川泰人
株式会社 MIERUNE 取締役



コーディネーターを務める
泉 典洋工学研究院教授



パネルディスカッションの様子



会場の様子



閉会挨拶を行う岡田成幸
広域複合災害研究センター特任教授